

令和3年12月24日

西部農林水産振興センター 益田事務所 農業部

標 題 石西地域集落営農推進研修会開催～きっかけは〇〇！その時、集落が動いた～

(ダイジェスト)

12月15日、西いわみ管内の任意集落営農組織、中山間地域直接支払制度協定参加者等を対象に石西地域集落営農推進研修会を開催しました。

当日は各組織から47名、関係機関31名、計78名の参加があり、法人化した組織、これから目指す組織、関係機関、それぞれの視点から「集落営農」について考えました。

県農林水産基本計画の重点推進事項では、地域の重要な担い手として集落営農組織を位置づけ、集落営農の組織化、法人化を推進しています。

しかしながら、集落営農法人の立ち上げに向けた合意形成の過程は多種多様で、その進め方や決断に悩むことも多く、話し合いが進まず、担い手不在集落も多く存在している状況から、次年度に向けてより多くの集落で今後の農地維持や後継者などについての話し合いを加速していく必要があります。

そこで、集落のリーダーはその時、何を考え、悩み、決断したか、パネルディスカッション形式で「その時」を引き出し、共有することで本研修会が多くの組織にとっての「その時」となることを期待し、「きっかけは〇〇！その時、集落が動いた」を研修テーマとして開催しました。

【パネルディスカッション】

- パネリスト (農)ひやころう波佐 代表理事 岡本氏
美郷町2集落 集落代表者3名
- コーディネーター 農業技術センター 今井企画幹
- アドバイザー 邑智農業部 清水専門農業普及員

【テーマ】：①集落営農の組織化、法人化のきっかけ
②小さくても成り立つ工夫

【集落営農の組織化、法人化のきっかけ、合意形成は？】

- 個人経営では赤字。集落営農の意義はみんなで損を補い合い、各種制度を有効活用して集落の農地を守っていく仕組み。
- 合意形成は難しく、もちろん反対もあるが、賛同してもらえる仲間もいる。進めていく上でその仲間の存在は大きい。



アンケート集計結果

	参加組織数	アンケート設問・回答 集落営農の組織化、法人化に向けて	
		自分たちの集落でも話し合いをはじめたい 【はい 回答】	関係機関を含めて検討していきたい 【はい 回答】
中山間直払集落協定	17協定	12協定	12協定
集落営農組織(任意)	1組織	1組織	1組織
その他(ほ場整備地区等)	2地区	2地区	2地区

【アンケート抜粋 感想・自由意見】

- ・聞くだけでなく、参加型の研修会で良かった。
- ・地域を巻き込む。本気になる。大切だと思った。
- ・同じ課題、悩みを持つ者として、あとはアクション！
- ・
- ・

アンケート結果では、上記のとおり15組織から集落営農の組織化、法人化に向けて「関係機関を含めて検討していきたい」と前向きな回答があり、農業部では研修会後も引き続き、関係機関と連携したチーム活動で切れ目のないフォローアップを行っていきます。